

桃山の ふたたび

織部の里公園 オープン

400年前の桃山時代、美濃地域は日本最大の施釉陶器生産地でした。
「大窯」「連房式登窯」と呼ばれる地上式の窯は、当時の技術の粋を極めたもので、ここで生産された陶器は全国へと出荷されました。
土岐市にある元屋敷窯は、美濃地域最古の連房式登窯で、当時の姿をよくとどめており、その重要性から昭和42年に国指定史跡となりました。
織部の里公園は、この元屋敷窯周辺を「歩く」「見る」「触れる」ことで、美濃桃山陶への理解を深め、楽しむための公園です。

昭和三十三年に発掘されたこの窯は、全長約二十四m、幅約二・二mの巨大なもので、焼成室が地上に露出し階段状に連なる構造から「連房式登窯」と呼ばれます。

青織部・赤織部・黒織部・鳴海織部・志野織部などの意匠を凝らした茶碗・向付・鉢・皿・徳利などの高級施釉陶器が生産されていました。

元屋敷窯（連房式登窯）



十六世紀後半（安土桃山時代）にこの史跡指定地内で最初に築かれた大窯です。はじめは、天目茶碗、灰釉皿、碗類、すり鉢などを生産していましたが、十七世紀初頭（江戸時代）には、織部黒茶碗や志野向付を量産しました。

発掘された跡から当時の姿へと完全復元され、窯の内部も当時を再現しています。

元屋敷東一号窯（大窯）



この窯では、沓茶碗と呼ばれるゆがみなどの変化がつけられた茶碗が登場します。

向付・鉢・茶碗・皿・水指・花入など生産された志野は多器種にわたり、後の織部に共通する意匠が見られます。

この窯は、発掘された姿そのままに復元展示しています。

元屋敷東二号窯（大窯）



元屋敷東三号窯（大窯）



全長七・五m、幅三・九mのこの窯は、東一号窯の次に築かれました。この窯では、天目茶碗、灰釉皿、すり鉢に加え、新しい意匠の瀬戸黒・黄瀬戸・灰志野・変わり黄瀬戸が登場してきます。

この窯は、内部構造が分かるように復元されています。

茶陶の聖地 織部の里

茶室 暮雪庵を移築



茶陶の歴史・文化の発信拠点として整備された織部の里公園内に、松坂屋創業家・伊藤家の暮雪庵が移築されます（2004年春ごろに完了予定）。移築後は、茶室を一般開放します。

織部の里公園に関するお問い合わせは、文化振興課（内線553）へどうぞ。

このほかにも…

作業場所跡

大窯近くには、二カ所の作業場所跡があります。いくつもの柱穴から、当時そこに窯道具などを保管した作業小屋があり、陶工たちが匣鉢詰めなどの作業に汗していた姿をしのぶことができます。

美濃桃山陶体験施設

作陶を通じて、美濃桃山陶を研究・体験できるこの施設では、くいのみ・抹茶茶碗・コーヒーカップ・一輪差など、好みの器を親切な指導員の手ほどきを受けながら作ることができます。作品は、約四十日後に郵送します。

作陶・郵送ともに有料

わたしの
オススメ



市埋蔵文化財センター
平井義敏さん

織部の里の目玉といえば、美濃で最初に築かれ織部焼を焼いた連房式登窯の元屋敷窯でしょう。中に入って想像してみてください。四百年前の陶工たちが、どんなふうにいる窯で焼き物を焼いていたのだろう？と。元屋敷窯を訪れ、その歴史や当時の様子に興味を持った方は、美濃陶磁歴史館にもお越しください。